

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 5	学 校 名	鹿島高等学校附属中学校				課程		学校長名	河田 実						
教頭名	土屋 和佳								事務 (室) 長名	田山 みどり						
教職員数	教諭	10	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	0	実習教諭、実習講師、実習助手	0	事務職員	0	技術職員等	1	計	14
生徒数	1 年		2 年		3 年		合計		合計		クラス数					
	男	女	男	女	男	女	男	女								
	15	25	20	20	20	20	55	65			3					

2 目指す学校像

<ul style="list-style-type: none"> ◇ 生徒たちが時代の大きな変化をチャンスと捉え、予測困難な未来に対応する考え方と力を身に付けていく学校 ◇ 自律した生徒たちによる多彩な個性と自由な発想に満ちた活力ある学校 ◇ 6年間を見通した教育実践を通して、確かな学力を育むことのできる学校
--

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
進路・学習支援	入学者選抜を経て入学してきた生徒であり、学習に対する意欲や向上心が高い。	年間を通じて学習意欲を維持させる必要がある。
生徒支援	落ち着いた学校生活を送っている。広域からの通学のため登校時間を高校に合わせて設定している。	引き続き、いじめのない安心安全な学校作りに向けた教員間の共通理解。交通安全への意識喚起。

別紙様式 1 (中)

特別活動	生徒会主体となり、異学年交流や中学校スポーツ大会を企画・運営する。また、高等学校の生徒会と協力し、文化祭を行う。	生徒会活動・部活動に積極的に取り組もうとする姿勢が見える。スクールバスの運行に合わせ、部活動を展開していく。
渉外	高校進学後に各支部でのPTA活動となることを見据え、各クラスにおけるPTA活動をサポートしている。	学年委員の保護者にもPTA評議会に参加していただき、学校と保護者の協力・連携をより強めていく。
図書視聴覚	図書館を活用して積極的に読書をする生徒が増えるよう、ブックカフェ等で図書館と本のPRを行っている。	さらなる生徒の読書意欲の喚起を図書委員の生徒とともに実施していく。
保健厚生	身長体重の平均値から、標準体型の生徒の割合が高く、発育状態は良好である。虫歯の保有率も低く推移している。	眼科受診率(59.8%)の維持・定着を図り、早期受診を継続的に啓発する。
情報	それぞれの生徒が1人1台学習用端末を適切に使用することができている。	AIを活用するなど、課題解決学習の中でICT機器をより効果的に活用できるようにする。
教育相談	相談体制は、SCによる、希望者への個別面談、中学1年生対象全員面談及び全学年対象生活アンケートを中心に展開。	相談に時間を要するケースもでてきており、調整を円滑に行っていく。
広報	学校説明会・学校公開・HPなどを利用して、本校の指導体制や特色を発信していく。	学校HPの更新頻度を上げ、学校生活の様子を知ってもらえるようにする。
働き方改革	開校7年目を迎え、業務内容が多岐にわたり、複雑になっている部分がある。	ICTの有効利用や組織として業務の見直しを行い、全員が時間外勤務月45時間以下になるように努める。

4 中期的目標

1	生徒の自主的活動を支援し、自分たちの学校を自分たちで築いていくという気概を持たせる。
2	学校行事等への積極的な参加を促すとともにキャリアパスポートを活用し、学校生活を豊かに送れるようにする。
3	生徒が意欲を持って学習に取り組めるよう、目標設定のための個別相談や、進路に関する通信や講話等の充実を図る。
4	教員のワークライフバランスの見直しと、働きやすい職場環境の構築を図り、働き方改革を推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学力向上	生徒の学力向上のため、デジタル教材とアナログ教材の併用を効果的に行うことで、学習指導の充実を図り、学習の質を向上させていく。
I C T教育の充実	県から1人一台貸与されているChromebookを効果的に活用し、Google ClassroomやClassiNOTE等の学習支援アプリを活用した学習スタイルを確立させていく。
基本的な生活習慣の確立	学校全体として統一的な指導体制「み(身だしなみ)・そ(掃除)・あ(あいさつ)・じ(時間を守る)」を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動ができる人間の育成を図る。
探究学習の推進	本校独自の探究の取組を考案し、実践しながら探究学習の充実を図る。
コンプライアンスの徹底(「たいせつです」運動)及び働き方改革の推進	「たいせつです」運動(体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止)の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、サービス規律の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。
授業改善	◇授業満足度(K P I) 3.6以上の達成